

	三重大学 学際分野
学部等の教育研究 組織の名称	人文学部（第1年次：265名） 人文社会科学研究科（M：15名）
沿 革	昭和24（1949）年 三重大学設置 昭和58（1983）年 人文学部設置 平成4（1992）年 人文社会科学研究科設置
設置目的等	<p>昭和58（1983）年に、地域の期待と総合大学化への要請から、人文社会科学の諸分野において学際的、総合的な教育研究を行うことにより、専門知識と豊かな教養に基づき、広い視野と柔軟な思考力をもった、地域社会や国際社会で活躍できる人材を育成し、地域文化、地域社会の発展に寄与することを目的として、人文学部が設置された。</p> <p>平成4（1992）年に、人文社会科学の諸分野における高度の専門知識に基づき、狭い専門領域にとらわれず、学際的、総合的な教育研究を行うことにより、複雑化、多様化する現代社会に柔軟に対応でき、創造的な知性と国際的な視野をもった研究者及び専門的職業人を育成することを目的として、人文社会科学研究科が設置された。</p>
強みや特色、 社会的な役割	<p><b>【総論】</b></p> <p>三重大学における人文社会科学分野においては、真理の探究を図るとともに、地域における課題解決の役割を果たすべく、教育研究を実施してきた。</p> <p>引き続き、上記の役割を果たしながら、教育及び研究において明らかにされる強み・特色・役割等を踏まえ、学内における中長期的な教育研究組織の在り方を速やかに検討の上、実行に移す。</p> <p><b>【教育】</b> (学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文学・社会学・経済学等の学問分野の教育研究を通じて、専門的知識と豊かな教養に基づき、広い視野と柔軟な思考力を有し、地域社会や国際社会で活躍できる人材を養成する。</li> <li>○ このため、年次ごとの達成課題を明確にするなど学生が段階的・体系的に目標を持って履修できるカリキュラム改革を実施、カリキュラムポリシーとカリキュラムマップを作成し、教務委員会及びFD委員会による全員参加型FDでその改善に取り組んでいる。さらに三重県、愛知県等近隣高校への年50回程度の出前事業等を通して学部教育での「学び」</li> </ul>

を発信するとともに、地元の校長や企業人とともに継続的に学部教育内容の検証を実施している。

- これらの取組を通じて、入学辞退率が5年前より8.1%減少している。また、地域の地方公共機関や金融機関に卒業生の約40%を輩出している。
- 今後、卒業時に必要とされる資質や能力を可視化しつつ体系的な教育課程を編成するとともに、留学生と日本人学生によるランゲージカフェ（タンデム学習）や域学連携等での実地型教育、専門教育のための少人数教育などの学生の能動的学習を促す教育の実施や組織的な教育体制等を整備すること、また、これらの取組の実施だけではなく、可視化した資質や能力に応じた取組の成果や効果等を適切に把握していくことにより、学士課程教育の質的転換に取り組む。

#### （大学院）

- 地域文化の理解と発展等や地域における政策形成、企業活動等に指導的役割を發揮しうる専門職業人を養成する。
- このため、三重県下の市町を対象にした域学連携での現地型授業「三重の文化と社会」を開講し、留学生を含め、院生の研究成果を一般公開の場である「地域フォーラム」で発表するとともに研究科が発刊している地域交流誌「TRIO」に掲載、地元市町村の支所や図書館等、商工会議所、金融機関の支店等に配布することによりその成果を地域へ還元している。また、地域課題別教育体制、「社会人の学び直し」のため夜間開講、長期履修学生制度を導入している。
- これらの取組を通じて、「地域フォーラム」に自治体の長等が参加し、地域課題の検討の場となっている。
- 今後、地域課題に取り組む高度人材の育成の観点から学部と大学院との関係を検討し、修士論文の中間発表検討会を新設することにより修士論文作成の指導体制の充実に取り組む等、社会人、留学生を含め、時代の動向や社会構造の変化に的確に応え、課程制大学院制度の趣旨に沿った教育課程と指導体制を充実・強化する。

#### 【研究】

- 人文科学から自然科学に至る学際研究分野の実績をいかし、地域の歴史や文化を踏まえ、忍者文化等の特色ある研究を実施している。
- これらの取組を通じて、海外からの招待講演の依頼が急増しているなどの反響をいかして、歴史学（史実としての忍者）及び文学（忍者像の形成・展開）をベースにした文理連携の学際的研究である忍者文化研究等で地域を発信し、海外ネットワークを形成しつつある。
- 今後、伊賀連携フィールドの協定に基づく忍者文化及びまちづくりの研究等をもとに人文学の研究センターの再編に取り組む等、文理連携・域学連携で総合的な研究を組織的に推進するとともに、地域の課題解決・地域の発信・文化の発展に組織的に取り組む。

**【その他】**

- 忍者文化とまちづくり研究による地域貢献事業や東アジアの協定校との学際研究に取り組んでいる。
- 全学的な機能強化を図る観点から、18歳人口の動態や社会ニーズを踏まえつつ、地域の指導的役割を果たす人材を育成するため、県、市及び商工会議所とのネットワーク構築を図り教育体制を整備するなど学部・大学院の教育課程及び組織のあり方、規模等の見直しに取り組む。